

会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第4回）
開催日時	平成30年6月28日（木）午後2時30分から午後4時00分
開催場所	西東京市立谷戸小学校 ランチルーム
出席者	（委員）松平会長・中村副会長・勝山委員・奥田委員・伊藤委員・横張委員・福田委員・押見委員・鈴木委員・金澤委員・緒方委員・金木委員・清水委員・皆川委員 （欠席）新出委員・小林委員 （事務局）等々力学校運営課長・近藤・石部・越川
議題等	<議題> 1 親子給食について 2 中学校給食アンケートについて
会議資料の名称	1 田無小学校・田無第三中学校の親子給食の見直しに係る田無第三中学校の親校について 2 中学校給食アンケート報告書
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営課長挨拶 出席委員14名、委員数16名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認 ・会長挨拶 ・事務局より、4月の人事異動によって新しく副校長の代表となった勝山委員の紹介。 学校運営課長より任命書を伝達。 <p>議題1 親子給食について</p> <p>○会長 前回の議題に続いて、田無小学校・田無第三中学校の親子給食の見直しに係る田無第三中学校の親校について、教育委員会で検討した経過と結果の報告があるそうである。事務局より説明を求める。</p> <p>○事務局 前回2月22日に開いた審議会で、田無小の児童増に伴い、田無小と田無三中の親子給食を見直す必要があるため、新しい親校の候補を提示して、委員の皆様にご了解していただいた。ひばり中の通学区域変更が今回の親校の決定に影響があると考えられるが、新学区域の決定が前回の審議会より後であったため、前回は親校の候補を示すにとどまっていた。今般、通学区域の決定に伴い、前回示した候補の中から、田無小の親校を決定したので報告する。</p> <p>資料1の1「田無第二中学校・ひばりが丘中学校の学区域の見直しについて」、平成33年4月から表のとおりとなる。見直し後は、田無二中には住吉小の児童が概ね50%強進学することになる。</p> <p>次に、資料1の2「中学校給食配送委託料について」、前回の会議の際にも説明したが、田無小以外のどこの小学校を親校にするにしても、現在と配送の距離が変わる。配送のコストは単純に距離換算の部分が大きいいため、委託料が現在と大幅に変わるようであれば、ランニングコストであるため、判断材料としてはかなり重要になる。見積もりを取ったところ、現行は、年間4,800万円程度かかっているのが、2案の田無三中の親校を住吉小にした場合には、年間で約27万円のアップになるとのこ</p>	

とである。もう一方の3案は、田無二中と新ひばり中の学区域変更に伴う親校2校の変更案であるが、2案と3案の金額差はほぼ無く、どちらを選択しても委託料としては問題ないという結果となった。

また、資料1の3「配送にかかる時間について」、これは親子給食を開始する際の方針として、配送時間は、概ね10分以内としている。今回新しい親子校の組み合わせを決めるに当たって、それぞれのルートでかかる時間を事務局で実測した。距離が4.4kmの住吉小から田無三中は10分を超えてしまい、距離が3kmの住吉小から田無二中、谷戸小から田無三中は、往復とも10分程度で運べるという結果になった。

最後に、資料1の4「新通学区域による想定児童生徒数について」、今回は具体的な人数を申し上げることができなかつたために、谷戸小から田無三中の配送となった場合、児童生徒数の関係で調理に問題はないのかという質問があがっていた。教育企画課学務係で作成している推計値を確認したところ、現在の児童生徒数は平成30年5月1日現在の実人数であり、平成36年度までの推計値は、少しの増減はあるものの、どの学校も大きな変化はないということである。私どもが提案している2案、3案ともに人数によって給食を調理できなくなるような事態にはならないと考えている。

以上から導き出した結論は、資料1の5にあるとおり、平成34年度から谷戸小を田無三中の親校とし、住吉小を田無二中の親校とするということになる。

結論に至った理由としては、資料1の6にあるとおり、①住吉小と谷戸小は、田無二中と田無三中どちらの親校となっても、食数の観点から給食提供が可能である。②配送時間の観点では、10分程度で配送ができる住吉小と田無二中、谷戸小と田無三中の組み合わせが優位である。③委託料の観点では、どちらの組み合わせでも大きな影響はない。④通学区域の観点では、田無三中は住吉小、谷戸小どちらも進学する児童がおらず、優位性に差がない。しかし、田無二中は谷戸小からの進学はなく、住吉小からは半数以上の児童が田無二中に進学することになるため、住吉小を田無二中の新たな親校にすることが優位である。以上、4つの観点からの選択になっている。

○会長 委員の意見を伺う前に、事務局の説明に対して質問はあるか。

(「質問なし」)

○会長 それでは、先ほど事務局より説明のあったとおり、平成34年度から、谷戸小を田無三中の親校とし、住吉小を田無二中の親校とした決定について、何か意見はあるか。

(「意見なし」)

○会長 質問、意見ともに終結する。教育委員会は、児童・生徒への影響が最小限となるよう配慮して、今後の手続きを進めていただきたいと思います。

○事務局 今後の日程としては、平成34年4月から新しい親子校の組み合わせで開始したいと思う。本日の報告内容を直近の教育委員会に報告して、最終的に教育委員会としての結論となる。その後、市長部局に報告をし、平成30年度中には結論を出していく予定である。最終決定後の報告は、給食運営審議会にも行わせていただく。

○会長 他に意見等がなければ議題1は終了する。

議題2 中学校給食アンケートについて

○会長 中学校給食アンケートについて、アンケート結果報告書を事前に配付している。委員の意見をいただく前に、事務局の補足説明を受ける。

○事務局 報告書の21ページには、集計の考察を記載した。

給食時間についてだが、30分という時間が長いとは思っていなかったが、今回アンケート結果を見てみると、長い・短い回答は拮抗しており、少しだけ短いとの回答の方が多くということであった。この結果だけみると、子供たちは短いと感じているということになるが、自由意見を読んでもみると、時間についての意見を書いている生

徒は少なく、味付けに対する感想やメニューの希望などを書く生徒が多かった。また、「季節にちなんだ料理や外国の料理など、食べ慣れないものを出さないでほしい」という意見が非常に多く、「自分は肉が嫌いなので出さないで欲しい」といった、嗜好による好き嫌いが食べ残す理由の上位に出てきている。給食時間は長いに越したことはないのかもしれないが、時間を延ばしたからといって食べる量が変わり、食べ残しが減るということだけでも無さそうであるということが、集計を行っての考察である。

味付けや量に関しても、家庭の味とは違うため、濃い・薄いの感じ方は個人の日常の食事によるところではある。給食では塩分を控えて、豆や小魚類を多く出すという特徴があるため、生徒たちの口には当初は馴染まないものもあるかもしれない。

中学校給食も7年目になり、中学生も給食に慣れてきたのか、3年前のアンケートの数値より若干良くなっている。

3年後にまたアンケートを実施する予定だが、今回とまったく同じ質問内容で良いものなのか、委員の皆様にもご意見をいただきながら、準備をしていきたい。

○会長 アンケート結果を受けて、委員の意見や感想、3年後のアンケート内容について意見があれば併せて伺いたいが、まずは、栄養士から付け加えることがあれば説明をしてほしい。

○委員 学校での試食会でも保護者に伝えているが、だしをしっかり取って、だしの味で食べられるような献立にし、塩分を控えて素材の味を生かしたものにするというのが、各校栄養士の中での共通認識である。

また、外国の料理については、香辛料を多く使っていたり、食べ慣れないものもあるかと思うが、これから世界で活躍する人も出てくると思うので、色々な国の食文化を経験して、大人になって外国で食事をする際に、給食を思い出して、慣れないものでも食べてもらえたら良いと考えている。

○委員 アンケートの感想としては、肯定的な意見が多かったのではとしている。次に向けて、質問項目を検討するということが、温度に関しては、給食運営審議会の試食でもご理解いただけたと思うが、問題なくクリアしているので、次回のアンケートの際には質問からはずして良いのではないかと思う。

現在、公立中学校に進学する子を持つ保護者は、給食は当然あるものだと考えている方が多く、期待感を持っていると思うので、これからもおいしい給食を提供し続けたい。

○委員 温度に関して、結果の考察で配膳の時間が関わってくるという指摘があったが、配膳が早ければ温度も冷めず、食べる時間自体も長く取ることができるのかなと感じる。また実際に試食した際に、温かかったということもあり、温度に関しては重要な項目ではないと感じる。次回アンケートの際には温度の質問は無くして、その分自由意見を多く書けるようにしてはどうかと思う。

○会長 給食の時間が長い、短いということに関して意見はあるか。

○委員 学校現場から考えると、このアンケートのとおりだなと感じる。もう少し食べていたいという生徒もいれば、食べ終わってしまって早く校庭に行きたいという生徒もいるような状況である。

○委員 片付けた食器を小学校で洗浄しているため、片付け時間のリミットが決まっている状況もあり、時間の延長は難しいというのが理由としては大きいと感じる。

○委員 給食時間が短いということについて、それほど問題視していないということであったが、アンケート結果を読んでいて、時間が無くて牛乳を飲みきれないという生徒が結構いたのではないのかと感じたため、給食時間に関して考慮してほしい。何らかの工夫をして、もう少し食べる時間が取れると良いのかなと思う。

○会長 私の経験上、指導力のある教員の場合には、早く食べ終わっても給食の時間内には教室に留めるように徹底できるが、そうでない教員の場合には収拾がつかなくな

ってしまう場合もあると感じている。生徒指導にも影響が出る部分でもあるため、時間を延長するというだけでは解決しないのではないか。

- 委員 やはり、生徒によって食べるのが遅い・早いがあり、早く食べ終わってしまって時間を持て余してしまう生徒がいたり、ゆっくり食べる生徒もいて、個人差がある。クラスによっては、下膳時間後も少し時間を設けて、食べ切れなかった生徒に配慮するような指導をしている教員もいる。また、配膳を素早くさせるよう指導することで、食事時間が多く確保できるように工夫している。
- 会長 ほかの感想はあるか。
- 委員 牛乳についてだが、今年度からパックに変わったことによって飲みやすくなったと感じる生徒が多いようである。前と量は変わっていないが、少なくなったように感じたり、牛乳のにおいを感じにくくなり苦手な生徒でも飲みやすくなり、残乳も減ったと感じた。
- 委員 自由意見について、細かく見ることのできる資料はないのか。件数の多い意見は検討がつくものもあるが、「給食回数について」「小学校の給食を懐かしむ」などの少数意見はどういうことなのか。
- 事務局 給食回数については「親子給食校間で小学校は給食があるのに中学校がない日がある」「小学校が休みの日でも中学校だけ給食を出してほしい」という意見などがあつた。小学校の給食を懐かしむ意見というのは、単独調理校で食べてきた生徒が、「出身校の〇〇小の給食を食べたい」という意見を書いていたようだ。
- 委員 その意見が出るのは、その学校オリジナルのメニューがあるからではないのかと思う。自分の通っていた小学校の給食が一番だと思っているのかもしれない。
- 委員 人気のメニュー「おかしな目玉焼き」であるが、リクエスト給食で中学校でも出たときに、「懐かしい」という声が多くあがったと聞いている。また、私の子は高校生になったが、今も下の子の給食メニューを見ては懐かしんでおり、中学生の時に給食があつたのはありがたかつたと言っている。親としても、高校は毎日お弁当のため、中学までは給食があつて本当にありがたかつたという話をしている。色々な意見はあろうが、こんなに手をかけてもらっていて、本当にありがたい。
各校の試食会でも、食べてみれば給食の美味しさがわかり、子供に不味いと言わせないようにする、という保護者が沢山いた印象である。
- 委員 料理の名前を聞いただけで、味がすぐわかり、共通認識として教えてもらえるのもありがたいと感じる。色々な料理を覚えられ、食育としても、給食は日本特有のものなのでよく考えられているなど感じる。
- 委員 給食で色々な味を体験してほしいという話が先ほどあつたが、家庭では自分の作ったことのある料理しか出せないのも、そういう意味では数多くの食材を使って、色々な料理を出していただけるというのはありがたい。しかし、外国のメニューは外食でも食べることができるので、できれば日本の昔からの家庭の味を伝えることにも力を入れてもらえたら嬉しい。今の日本の子供たちが海外に出て行ったときに、日本の味を伝えるということも大事なのではないかと思うので、ぜひ考えてほしい。
- 委員 和食を最初から好きという児童は少なく、食べ慣れていないということだと思う。しかし、何年か食べているうちに、周りの子の反応を見て食べてみたり、教員の指導によってだんだん美味しいと感じるようになってくる子もいる。家庭ではどうしても決まった人しか食卓を囲まないが、学校だとクラス替えがあり、級友・教員も変わるので、新しい人と出会いながら、影響を受けながら食べるという機会がある。その機会を利用して、新しい味との出会いが増えればよいと思う。
- 委員 和食を出すと、小学校は低学年の残食が多く、苦手な様子が伺える。1年生だと4～5月は食べ慣れていそうな、食べやすいであろう組み合わせで和食を出すようにしている。秋から冬になると気温も下がり、食欲も出てくるので、温かいもので新しい料理を出していくようにしている。教員からの報告では、3年生位になると和食

の方がよく食べるようになるようだ。中学生も和食をしっかり食べているという印象がある。これからも様々考えながら献立を立てていきたい。

- 副会長 アンケートの結果も報告書の形に整えていただき、貴重なデータの報告をありがたく思う。見てみると、中学生は給食を喜んでいると感じた。時間の面では難しい面もあるのかもしれないが、全体としては、給食になってよかった、バランスが取れている、などとも評価されていて、中学生が喜んで食べているのだなと感じる。

先ほど洋食ではなく和食を、という意見があったが、学校給食では洋風のハンバーグでもすごく工夫されていて、大豆が刻んであったり、豆腐が入っていたり、外食とは違っている。材料の味の良さを生かし、化学調味料を使わずに作るなどの工夫もされていて、給食ならではの文化ではないかと思う。

- 会長 いずれにしろ、西東京市の中学校給食は順調に推移していると言える。他に意見が無ければ議題2は終了する。

最後に次回の会議予定を報告してほしい。

- 事務局 次回の開催は10月中を予定している。新ひばりが丘中の給食について、議論をしていく予定である。

閉会

- 会長 本日の会議を散会する。